



協働のまちづくりを実現する 市民討議会 NEWS

発行：平成28年9月 伊予市未来づくり戦略室 [伊予市米湊820番地 089-982-1111]

第2回伊予市市民討議会を開催しました！

伊予市では第二次総合計画の策定にあたり市民アンケート、市民ワークショップ、団体ヒアリング、市民討議会など、市民参加の手法も積極的に取り入れて検討を進めてきました。今回はより多くの市民の方に、第二次総合計画の内容を知っていただくとともに、更なる参画と協働の推進に向け、市民討議会を開催しました。

8月7日(日)、ウェルピア伊予で開催した市民討議会には無作為抽出で2,000名の市民の皆様にご案内し、32名の皆様にご参加いただきました。

はじめに、第二次総合計画の概要について事務局から説明しました。説明を聞き、グループごとに3つの質問を考えていただき、それに対する補足説明を行いました(p2～)。

昼食後、未来戦略プロジェクトの事業内容について経緯と進行状況を説明し、全体の場でアンケートを行った後、グループごとに推進のためのアイデア出しをしていただきました(p5～)。

その後、各グループが1～2つの未来戦略プロジェクトについて、市民の認識が広がり、プロジェクトが実現するような知恵を3つにまとめていただきました。最後に全体の場で発表していただき(p9～)、市民討議会を終了しました。

伊予市で開催する市民討議会は二度目のことでした。今まであまりこうした場に出てくる機会がなかった方による議論の時間は、これからの伊予市を考えるにあたって貴重な機会だったと思います。高校生の参加も2名ありました。来年以降も継続的に市民討議会が開催できるよう検討していきたいと考えています。

＜市民討議会プログラム＞

1：はじめに

第1ラウンド

ステップ1：はじめに

ステップ2：第2次伊予市総合計画の概要について説明します

ステップ3：総合計画の内容について3つの質問を考えてください

ステップ4：質問に対して補足説明してもらいます

第2ラウンド

ステップ5：未来戦略プロジェクトの事業内容について説明します。全体でアンケート、次にグループで情報交換してください

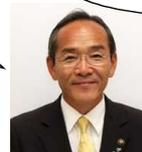
第3ラウンド

ステップ6：それぞれの未来戦略プロジェクトで提案されている事業を、より多くの市民に広げていくための知恵を提案しよう！

ステップ7：グループで考えた市民の知恵をそれぞれ発表してもらいます

ステップ8：まとめ

新伊予市が誕生して11年が経ちますが、この間、3,000名ほど人口が減っています。そんな少子高齢化の中、第2次伊予市総合計画を立ち上げ、様々な形で人口減少対策に取り組んでおります。今日は皆様の経験を踏まえた知恵やヒントを出し合っていたくことを本当にありがたく思っています。素晴らしいご意見を賜って、伊予市の市政そして市民のために反映させていただきたいと考えています。



武智市長からの
あいさつ

第2次総合計画の内容について3つの質問

策定された第2次総合計画の全体構成と概要を事務局から説明しました。説明を聞いた後、総合計画に対する質問をグループで話し合っ、3つ出していただきました。()はグループ番号

データや数値について

- ・合併後10年間の反省を計画に反映してる？(2)
- ・具体的なデータ、数値があると議論がしやすい。(1)
- ・計画の具体的なスケジュールと数値目標(2)

市：第2次総合計画は総合計画策定審議会に役員会を加えた28回の会議を開催して策定した。

前半は第1次総合計画の検証と、どのように事業が行われたかに重点を置き、伊予市が取り組んでいる600の事業全てについて、審議会の皆様からご意見をいただいた。

基本計画では24の施策について、それぞれの分野で3～5つのできていない点を掲げて、どうすれば解決に至るか、数値がどのように改善されるかを示している。

また総合計画以外に3年ごとの実施計画や中長期財政計画もあり、資源、限られた財源と資源を有効に使って事業に取り組んでいる。

優先順位について

- ・政策を行っていく上でどのような優先順位をつけているか。またそれはどのように決めているのか。(1)

市：優先順位については市民の皆様が何を重要と感じているかというところもあるが、財政面を考慮しながら、どのように希望をかなえていくかが重要である。

できるだけ市民の皆様にご満足いただけるような施策が講じられるように、それぞれの部署は財政部門と協議をして、必要であれば県、国、関係機関から交付金や補助金、助成金をもらって事業に取り組むこととする。優先順位はしっかりつけながら事業を行っているところである。

子育て環境について

- ・子どもを産み育てる環境について、具体的な計画内容があれば教えてほしい。(2)

市：子育て支援では民間と協力して保育所等を増やすという新制度ができたことから、民営の保育所がたくさんできつつあり、今のところ待機児童はいない。さらに幼稚園と保育所の両方の機能を併せ持つ認定こども園という施設も整備中である。

小学生を対象とした放課後児童クラブには、まだ入りきれていないところもある。特に市内中心部については共働きの方が多く、学校が終わって家に帰っても自宅に誰もいない子どもも多い。そういう子ども達が放課後、勉強したりおやつを食べたり友達と遊んだりできる児童クラブの制度についてはさらに拡充を図ると聞いている。そういう仕組みについても計画に基づき、精力的に取り組んでいるところである。

市民討議会について

- ・昨年の討議会での話し合いが、どのように活かされているのか知りたい。(1)

市：昨年3回のワークショップと市民討議会で提案された9つのプロジェクトはそれぞれの関係の部署で、最重点事業として取り組んでいる。これらは市民の皆様のご意見ということで、政策上に十分反映されている。午後には実際にどのような取り組みが行われているかもご紹介したい。

会場：どうしてして今日の議論の前に総合計画の冊子を配ってくれなかったのか。

市：9つの重点プロジェクトが検討の中心になるものと思っていた。総合計画全般にまで話が及ぶと考えていなかったところもあり、準備が不十分であった点については申し訳なく思う。

人口減少への対策について

- ・人口減の理由は何か、つかまれていますか。(2)
- ・伊予市総合計画は本当に人口減少を止めるためのものなのか→住みやすいのになぜ人口が減るのか。(6)

市：地方創生に基づいた「まち・ひと・しごと総合戦略」では、51の施策について、それぞれ数値目標を掲げて人口減少に歯止めをかける取組をしている。

人口減少の原因としては自然減と社会減の2つがある。自然減は亡くなった方と生まれた方の差であり、伊予市はこれが大半である。伊予市は子どもが生まれる出生数が圧倒的に少ない。

社会減は転出入によって生じる人口減で、伊予市の場合は実は若干プラスになっている。今、伊予市では移住には取り組んでいるが、中心部については特にこれといった施策は講じていない。松山や松前、砥部に近く住みやすいことで大きな社会減につながっていないのではないかと考えている。

ただ大学進学時に住民票を持って出て、現地で就職する現象が多いのは確かである。仕事先がないと定住できないので、伊予市も松山や松前に頼るだけでなく、新たな企業を誘致したり、事業を興す方を支援する取組を強化しているところである。

スポーツについて

- ・スポーツ体験を増やすために具体的にどうしていくか（ホッケーなど）。(3)
- ・スポーツ、レクリエーションの機会はあるが、日常的にスポーツを継続できるような施設、設備がどれだけあるのか。(5)

市：来年、愛媛県で国体が開かれ、伊予市でも少年男子のバレーボール、成年男女のホッケー、ビーチバレーが正式種目で開催される。既にリハーサル大会も始まっており、開催種目がより盛り上がるように様々な取組をしている。

またスポーツを通じた健康づくりを目的に、ここウェルピアにおいて、健康ポイント制度という新しい事業を導入している。

高齢者対策

- ・高齢者への政策の実態について（バリアフリー、介護保険、年金）。(3)

市：介護保険は一定のきまりに基づいて保険料が決まる。高齢者がどれだけ住み、実際に病院、介護サービスをどれくらい受けられているかによるので、伊予市だけが突出して高いという認識はない。この近辺では東温市が比較的高いが、それは介護施設が多く、いろんなサービスを受けているのも原因の一つであると思われる。

役所の役割

- ・計画の中心になるのは誰で、市民が意識改革をするために役所はどうしていくのか。(3)

市：市民の福祉の向上が市役所の目標なので、計画においては市民が主役となるが、今までは事業の実施についてはもっぱら市役所主導であった。ただ市役所だけでは担えきれないところがあるので、市内の小中学校、高等学校、各団体や企業とも連携して様々な取組をしている。

市民の皆様が幸せになるために行政だけではなく、様々な方のお力、お知恵をお借りしながら進めていかなければならない。

広報について

- ・催し物の広報やお知らせが住民に届いていない。具体的にどのような方法を使っているのか。何か工夫はあるのか。(4)
- ・市民自体が活動を知らない→宣伝ができていない、参加できていない。(6)

市：催し等について周知ができていないことは十分に反省をしないといけないと思う。基本的に広報誌等の全戸配付、また文書の回覧が中心になる。ホームページにも掲載しているが、閲覧環境が整えられている方は少ないと思うので、頼るのはやはりいけないと思う。イベントによっては防災行政無線を活用させてもらうこともある。

こういうご意見について、広報・公聴の担当と一緒に検討していきたい。

宿泊環境

- ・宿泊環境に関して、団体を泊められるような施設はあるのか。(4)
- ・伊予市での宿泊施設がない→松山に泊まってしまう→地域にお金が落ちない。(6)

市：ウェルピア、中山の花の森ホテル、灘町のプリンスホテルなどがあるが、その他伊予市には大きな宿泊施設は少なく、大半の方は松山に泊まると思う。民泊も条例等を整えれば可能だがなかなか難しいので、宿泊の問題についてはしっかり考えていかなければいけない。

伊予のブランド

- ・伊予市において農作物のブランド認定の実績はあるのか。(4)
- ・伊予のブランドは中山栗として各地で売っている。それらの対応はどうするのか。(4)

市：伊予市でも今年から独自のブランド認定制度に取り組む。中山栗や唐川のびわなどがトップバッターとして認定されると思う。
どういう形でブランド化をして広めていけるか、今年、それに特化した新たな計画を作る予定である。

若者の定住

- ・若者が定住できる環境は整っているのか。(4)

市：実際に空き家の改修制度も設けているが、そこに住んでいただけるかどうか、また仕事があるかどうか。それらを整え、若い方にどんどん移住してもらえようになりたい。

住民自治活動

- ・伊予市内でも佐礼谷地区は住民自治活動を実施しているが、他の地域ではなぜできないのか。(4)

市：合併後、住民自治組織の取組みをしているが、認定されているのは住民自治佐礼谷だけである。今年、創設された総務課の市民協働推進室で、より重点的に取り組む予定である。

ため池

- ・農業用施設(ため池など)の維持、活用方法として具体的にどのような動きがあるのか。(5)

市：伊予市は元々水が少なかったためにため池が非常に多くある。各地域のため池は今、老朽化から改修時期に当たっており、国や県の補助金、地元負担もいただきながら改修しているところである。ただ農地面積も減り、全てのため池が今後必要かについて考える時期にきている。
香川県では池に太陽光発電パネルを浮かして発電をしている事例もある。このままでは少人数で多額の補修費用を賄わないといけなくなるので、今後の利活用についてしっかり考えていきたい。

空き家対策

- ・イベントとは別に空き家などを利用して、人々が交流できるような施設はないのか。(5)

市：空き家や空き店舗の活用は非常に大きな課題である。灘町には空き店舗を活用した「いっぷく亭」という人が集まれる場所がある。こういうものを他の地域にも広げていきたい。また空き家や空き店舗を今後、どう使っていくか、多くの方と話し合いながら検討していきたい。

今日、せっかく手を挙げて伊予市の将来に関する討議会に参加する皆様、事前に総合計画の冊子をお送りしなかったことをまずはお詫び申し上げます。

グループ討議では、「もっとスムーズにやれんのか」「民間なら通用せんぞ」「まず近所の人が集まる場所がない」など、それぞれの地域でいろんなご意見があるんだと思いました。

こういう場で、皆さんの意見を積み重ねて実現さ

せていくことが一番大事で、その方向軸を決めていくのがこの総合計画です。大きな枠としては具体論に基づき、いつまでにやるかを決め、できなければその都度修正したら良いというご意見を耳にしました。それも大切ですが、数値目標も決めて長期的な視点で作っているのが総合計画の屋台骨ですので、ご理解いただきたいと思います。

市長からのコメント



9つの未来戦略プロジェクトの 事業内容の説明と全体アンケート

総合計画の未来戦略プロジェクトの検討の経緯と進行状況について事務局から説明しました。
それぞれの内容について、全体でアンケートを行いました。

未来戦略 1

3万人が住み続けられる環境をつくります

1

快適環境い〜よプロジェクト（子育て支援・高齢者支援）

■子育て支援 『いよっこすまいる』の開設

子育て世代の就労形態の多様化や核家族化により、「子どもが体調不良のときに保育所に預けられない。」「誰かに見てもらいが近くにいない。」などの悩みを抱える保護者が増えている。そこで本年4月から、市直営の病児・病後児保育室「いよっこすまいる」を開設した。ここでは保育士や看護師が保護者に代わり病児・病後児保育室に送り届ける全国初の事業を開始した。

■高齢者支援 『介護サービスの基盤整備と地域ケアシステムの構築・確立を図る』

本市の平成28年4月1日現在の高齢化率は30.99%で、国の29.9%、県の30.35%を上回っており、今後ますます支援の必要な方の増加が予測されている。こうした状況の中、だれもが住み慣れた地域で、健康で生きがいを持って生活できる「やすらぎとぬくもり」のある長寿幸福社会の実現を目指している。そのために、地域で支えあう体制や風土づくりに努め、介護予防や生きがいづくりの支援を推進していく。また、介護保険サービスの基盤整備と合わせて、地域包括ケアシステムの構築・確立を図っていく。



全体アンケート

質問1	病児・病後児保育が始まっていたことを聞いたことがある、登録した人を知っている、または地域包括ケアシステムについて知っている	3
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	22

2

健康でいよう！スポーツプロジェクト

（スポーツの推進・国体の開催・健康ポイント制度の創設）

■平成29年度開催の愛媛県国民体育大会の開催に合わせた各種事業

- ・「国体いよ通信」「キッズニュース」、広報「いよし」を発行し、国体関連の話題を提供
- ・「ふれあいバレーボール教室」「中学校バレー部を対象とした指導事業」「ビーチバレークリニック」「ホッケー出前教室」などの開催
- ・えがおつなぐえひめ国体では、魅力と感動にあふれた大会を目指すとともに、市民のスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興、普及・発展を図るとともに本市の自然や歴史・文化等の地域資源を全国にアピールしようと考えている。

■健康ポイント事業の実施

- ・ウェルピア伊予の施設内において各種プログラムに参加しポイントを貯め、一定のポイントが貯まると健康関連商品等と交換できる「ますます伊予市健康ポイント事業」を実施
- ・気楽に参加し、楽しみながら取り組めるメニュー構成となっている。
- ・来年度以降は、対象メニューや実施エリアの拡大に努め、よりたくさんの方に、健康づくりに取り組んでいただける企画を検討していきたい。

全体アンケート

質問1	スポーツをやっている、国体に向けた広報を目にしたことがある、健康ポイント制度を知っている	13
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	21

3 みなさん伊予へいらっしゃいプロジェクト（移住促進）

■「市民が主役」の移住促進事業

- ・新市発足後10年で、周辺部を中心に3,000人を超える人口が減少し、地域活力の低下、地域コミュニティの衰退が進んでいる。
- ・伊予市では移住・定住の推進に力を注ぎ、アクションプランに基づき地域づくり団体と連携し、市民自らがともに暮らす人々を受け入れていく「市民が主役」の移住促進に精力的に取り組んでいる。
- ・今後は積極的に情報発信を行うとともに移住相談窓口の設置、空き家調査、移住体験ツアーの企画・実施、空き家改修補助制度の創設などにより移住者の受け入れ環境の整備を行い、県内外を問わず、多くの方に伊予市に移り住んでいただきたいと考えている。

全体アンケート

質問1	知り合いに移住してきた人がいる、または移住してきた	8
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	15

未来戦略 2

3万人を支える産業を育てます

1 立ち止まり 感じる ひとつづくりGT⇒CTプロジェクト（グリーンツーリズム）

- ・グリーンツーリズムとは農山漁村を訪問し、その自然と文化、人々との交流を楽しむレジャー形態で、伊予市でも「いちご狩り」「ピザ焼き」「こんにゃく作り」など様々な取り組みが行われている。
- ・個々の取組みを組織化した伊予市グリーンツーリズム推進協議会を設立し、情報誌への記事掲載や体験モニター事業等を実施して参加者の増加を目指している。
- ・今後は体験モニター事業に一層力を入れ、より多くの方に訪れていただくことで、伊予市の農山漁村の魅力を更に広め、農山漁村地域の活性化につなげていきたい。

全体アンケート

質問1	参加したことがある、やっている人を知っている、関わっている	8
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	25

2

「あじ」なまち応援プロジェクト（中心商店街活性化）

■商店街への集客に取組み、移住及び新規創業者に対する支援を行う

- ・伊予市の中心市街地である郡中地区は、商工業で発展してきたが、後継者不足やスーパー等の郊外型大型店舗の立地等により、商店街には空き店舗が増え、歩行者も少なく衰退の一途をたどっている。
- ・伊予市では、商工会議所、商業協同組合と連携し、「百円商店街」や「まちゼミ」を開催し、各商店等の魅力を発信することにより、商店街への集客に取り組んでいる。
- ・株式会社つくり郡中を中心に、中心市街地への移住及び新規創業者に対して支援を行っている。



全体アンケート

質問1	事業に参加したことがある、よく知っている	7
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	24

3

小さな事業から大きな産業へプロジェクト（産業振興）

■創業支援事業計画の策定と企業誘致

- ・若者の流出による過疎化の進行に伴う購買力の低下、商工業者自身の高齢化と後継者不足による経営力の弱体化等により、非常に厳しい状況にある中、伊予市においては、「創業支援事業計画」を策定し、市内商工団体、金融機関と連携した創業支援事業に取り組んでいる。
- ・企業誘致については、市長によるトップセールスを実施するなど精力的に取り組んでいる。特に湊町臨海埋立地への企業誘致には特に力を入れており、平成27年度に一企業が立地した。



全体アンケート

質問1	創業支援について聞いたことがある、制度を使ったことがある	3
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	16

未来戦略3

3万人の力を結集できる意識改革を行います

1

「イヨ」発信プロジェクト（情報発信）

■情報発信し、知名度の向上やふるさと伊予市への愛着の醸成に結びつける

- ・伊予市には特産品や豊かな自然や歴史、文化を楽しむ観光スポットが点在しているが、情報発信力不足により、まだまだ知名度が低い。
- ・「広報いよし」をはじめ、観光ガイドブックや食の情報誌「パケット」の発行・配布の他、ホームページ、SNSを活用した情報発信を行っている。
- ・今後は、これまでの情報発信の手法を検証しながら、シティブランドロゴマーク及びキャッチコピーの活用に努め、知名度の向上やふるさと伊予市への愛着や帰属意識の醸成に結び付けていきたい。

全体アンケート

質問1	ロゴマーク、「ますますいよし」、みかん丸をよく知っている	5
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	21

2 地産地消プロジェクト（食と食文化のまちづくり）

■「伊豫國あじの郷づくり」から「食と食文化のまちづくり」へ

- ・これまでの事業や成果を継承しつつ組織体制や事業の大幅な見直しを行っている。
- ・県内有数の水揚げを誇る「鱧」は現在、ほとんどが関西方面へ出荷されている。関係事業者・団体との連携により、地域内消費の拡大を目指した取り組みを始めたところ。
- ・柑橘類や栗、なすやレタスなど、伊予市を代表する「食」「食文化」をテーマに、給食センターや農林水産関係・健康増進関係部署とも連携しながら、地産地消の推進に取り組んでいきたい。

全体アンケート

質問1	伊予市が特に力を入れていきたいのはハモだということを知っていた	5
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	27

3 協働推進プロジェクト（参画と協働）

■地域コミュニティの基盤強化に向けた施設整備や補助制度の充実を図る

- ・平成22年に本市の最高規範として伊予市自治基本条例を制定し、この中で「参画と協働」を明確に位置付けし、積極的に推進している。
- ・政策の策定過程において、市民アンケートや市民参加型ワークショップ・市民討議会を取り入れるなど、より幅広く参画を促すとともに、市役所と住民が役割を分担し、お互いに協力し合うことで、地域が抱える様々な課題解決を図ることを目標に、住民自治に取り組む地域組織への財政的、人的支援を行ってきた。
- ・現在、急速に少子高齢化、人口減少が進んでおり、地域コミュニティの衰退が問題になっている。住民の生命を守るという観点でも今後、地域コミュニティの基盤強化に向けた施設の整備や補助制度の充実を図っていきたい。

全体アンケート

質問1	市民参加型ワークショップや市民討議会に参加した人を知っている、自分が参加した	3
質問2	このプロジェクトに関心や興味がある	22

より多くの市民に広げていく知恵を提案しよう！

それぞれの未来戦略プロジェクトの事業に対する市民の認識が広がり、より多くの市民の参加によってプロジェクトが実現するような知恵を3つ、出していただきました。グループで考えた市民の知恵を、全体の場で発表していただきました。

未来戦略1：快適環境い〜よプロジェクト[1グループ]

★「いよっこすまいる」を各地域につくる

- ・旧市町に1つずつ
- ・みんなのコミュニティが集まる場
- ・利用時間の前倒し、延長
- ・空き家を活用する

★簡易水道の維持管理が難しい

- ・上水道に変えるor簡易水道の維持管理者をつくる（高齢化のため第三者による維持管理）

★交通が不便で生活にこまる

- ・デマンドタクシーの距離を増やす（利用範囲を広く）
- ・地域住民が運転をして、住民が利用できるようにする

<ポストイット記録>

(学校)

- ・学校等、伊予市内に子どもが集中し、マンモス校と言われている。スクールバスを出すのかなのか。双海の翠小学校の話は知っている。
- ・中山高校の後ろの畑など草ボウボウ。ボランティアを募り、花木などを植えられるか。
- ・親がわざわざ子どもを育てたいと思うまち（タクシー通い学校）
- ・もう少しみんなが分かりやすいようにまとめた方が良い。

(いよっこすまいる)

- ・空き家を「いよっこすまいる」の活動場所にして定員の数を増やす。
- ・「いよっこすまいる」を全地域につくるべきだ。
- ・共働きの人とかにアプローチしていく！
- ・「いよっこすまいる」は知っているも、登録している人は少ない。
- ・「いよっこすまいる」利用時間の拡大。
7:30~18:00→7:00~19:00。通勤時間の余裕を持って。
- ・病児・病後児…子育てで支援ですが、もっとわかりやすい呼び名はないのか。難しい。
- ・中山地域の場合も伊予の病院なのか。かかりつけの町内の病院ではいけないのか。

(広報)

- ・助け合いの気持ちで進めて行くことは出来ないのか？
- ・なんで知られていない？もっと知ってもらわないと！
- ・広報を要約して地域説明に入る。
- ・プロジェクト→知られない理由は年代の違いかも。

(移住者)

- ・地域おこし協力隊による支援の枠を広げる。
- ・若い世代の移住者のターゲットはネットワークを使う人にしぼる。
- ・交流会を開く。人を発掘する。

<発表から>

- ・いよっこすまいるを旧市町に1つずつくらいつくってみてはどうか。みんなのコミュニティが集まるような場所は空き家を利用したらどうかという話だった。
- ・簡易水道の維持管理が高齢化により難しいので、維持管理者をつくって、その人達にやってもらえたら良い。
- ・交通が不便で生活に困るので、デマンドタクシーの距離を増やして欲しい。また地域住民が運転して、住民が利用出来るようなことをしてはどうか。

(環境整備)

- ・海岸や展望台付近の清掃を継続的に行う（地域、学生によるボランティアの一環として）。
- ・上下水道の整備、拡大を希望します。
- ・チョットいなか！が住みやすいかなあ。家庭菜園しながらパートしながら…。

(交通)

- ・住民が運転して住民を送るシステム。買い物に出られない→交通が不便（よりあいタクシー。チケット制）。道をつなげてほしい。

(高齢者、子ども)

- ・ひとり暮らしの老人や、小さな子どもさんへの関心を持つことが大事。
- ・快適…。子育て、高齢者、全てが繋がっている。大事な問題。
- ・独り身の高齢者が安心して住み続けられる住居、システムの構築。「coco湘南たかくら」藤沢市の事例。江戸時代の長屋。
- ・病児保育について、幼稚園、保育園、学校のイベントや集まりの時に知らせる。チラシ等。
- ・子どもが体調不良の時でも保育所に預けられるようにする。

未来戦略1：健康でいよう！スポーツプロジェクト[1グループ]

★イベント、取り組みに関するPRがうまくできていない。

- ・新しい手段（SNS、ネット）を活用する。
- ・事業（イベント）の恒例開催

★地域内で健康生活をはじめよう！

- ①グランドゴルフを始めるとよいと思います。
- ②子どもも大人もラジオ体操
- ③住民みんなで歩こう

★健康、スポーツ系施設の充実化

- ・「いきいきウォーキング」エリアを拡大し、地域のポイントを増加する。
- ・ため池ウォーキング
- ・学校体育館や外でプログラムを増やす。

<ポストイット記録>

(広報)

- ・スマホの活用
- ・SNSを活用してPR
- ・チラシ、インターネットで発信する。
- ・どういうグループが何をどこでやっているのか、全体がわからない。特にスポーツ系で。
- ・広報の充実
- ・国体に向けていろんな教室が開かれている事は分かりましたが、どこでその情報は得られるのか。
- ・2017年の国体を機に、継続的なスポーツ企画を実施してほしい。

(きっかけづくり)

- ・きっかけづくりをする（先導役）。
- ・小中学校でのスポーツ体験を増やして、スポーツに親しみを持たせる。
- ・公民館単位のスポーツコミュニティ
- ・地域で愛好会を作り、手軽に参加できる雰囲気を作る。
- ・地域で参加できる様にする。個人で参加しづらい人も参加できるチャンスを作る。
- ・若い人が参加していないのかな。
- ・指導者の発掘
- ・外部アドバイザー、コーチの充実→実績→地元企業スポンサー
- ・企業、メディア、露出、開放、コミュニティ、スポーツを通じて育成

(身近なことから)

- ・1日10分歩いてみる。
- ・自転車とか身近な運動も推進したい。
- ・国体競技とかは高齢な人は参加しにくい。
- ・グランドゴルフを始めるとよいと思います。
- ・夏休み以外でも高齢者対象にラジオ体操をみんなでする場所をつくる。
- ・ウォーキングとかは1人でもできるし、やりやすい。

(施設、イベント)

- ・健康、スポーツ系の施設の充実化、改変など。
- ・健康ポイント制度を身近なところで行えるようにする（例 ラジオ体操など）。

<発表から>

- ・広報誌やチラシだけでなく、SNSやネットなどをもっと活用しないと上手くPRできない。
- ・スポーツを恒例的に開くと、参加者が広がってくるのではないか。
- ・ウエルピアを中心に「いきいきウォーキング」をやっているが、中山や双海の人がここまで来てやらない。それぞれの地域の中にポイントを決めて、ここと同じようなものを作って、いきいきウォーキングエリアを拡大する。
- ・ため池が多いので、ため池を一周するスタンプラリーなどを始めてはどうか。
- ・学校体育館や外でプログラムを増やす。健康スポーツ施設をつくる話が出たが、お金がかかるので既存の施設を活用したい。



★情報発信戦略～大学のHPに学べ～

- ・移住する人→「伊予市」を知らない、大学→入らないと分からない。
- ・暮らし情報…在学生のメッセージ（→移住者メッセージ）
- ・学部情報…どんな学びの場（→空き家情報）
- ・仕事…就職先（→移住者の事例）
- ・大学の魅力…定食屋、生活に必要な情報（→市の魅力発信）

★儲かる空き家プロ集団

★総合相談窓口の設置

＜ポストイット記録＞

（施設の建設）

- ・五色浜の隣に複合スパの施設をつくりたい。既存の建物との兼ね合いが難しいか。
- ・高齢者対策等、公共のものだけでなく中山であれば商店街のお店の奥を改造し、ちょっと一服できる場所を設けるとか。その改造の支援。
- ・市のアピールできる施設が少ないが、新規建設できる予算はあるのか。

（移住者の受け入れ）

- ・定住者と移住者の関係。
- ・移住した後の仕事、暮らし方が分かると良い。
- ・移住者の集まりで、外からの視点で話し合いをし、意見を吸い上げてもらいたい。
- ・双海は翠小学校の様に受け入れの小学校がある。
- ・新しい移住者への情報提供（地域ごとの特徴や決まり、メリットデメリット）
- ・移住者へのフォロー（来た後をどう支援するか）
- ・移住者へのフォロー。住宅支援、生活支援、就業支援、地域コミュニティへの参加支援はどうなっているか。
- ・短期のツアー
- ・地域との交流事業。祭りへの参加を促す。地域の常会への参加。
- ・縦の世代間のつながりをいかに作るか。
- ・総合相談窓口の設置（情報の一元化、ワンストップ）
- ・支援員が最初の顔合わせに付き添う。
- ・NPO法人の設置。フットワークの軽い民間だからできること。

（情報発信）

- ・SNSも利用して全国へ宣伝、発信
- ・市の歴史を要約した資料の公開
- （環境、整備）
- ・環境問題。伊予は国道がきれいと言わせたい。中山～伊予までの国道が荒れ放題。何とかしたい。来年の国体に向けて移動車もある（高速利用するかもしれないが）。自分の地域の国道ではあるが守りたいと思う。
- ・地域の魅力づくりが大切
- ・「伊予らしさ」の創出
- ・県都までの時間が短い、便利
- ・山有り、谷有り、海有りと自然が一杯
- ・仕事、ゆったり時間が過ごせる。

＜発表から＞

- ・SNSも利用して全国に情報発信するのに、まず大学のホームページを参考にしてみたい。
- ・空き家の利活用について、「儲かる空き家プロ集団の創設」をしたい。所有者、地域の方、地元の建設業者、金融機関がタイアップして、地元も儲かり、移住者も低金利でお金を借りられるような、両者が得するような集団を提案したい。
- ・情報を一元に提供できる総合相談窓口を設置し、NPO法人など民間の方々に運営をお願いする。フットワークが軽く、柔軟な発想で移住者の支援ができるのではないかな。
- ・短期の体験ツアーもして、地域に馴染む、地域を知ってもらうのも良いのでは。



（空き家の活用）

- ・空き家を利用できるシステムを作る。
- ・空き家を安心して貸し出せる仕組み、借りられる仕組みを作って紹介するところがあれば良いが。
- ・空き家対策の情報がほしい。中山までは空き家があっても職場が遠いから何らかの補助を行うとか。持ち家を持ったなら家賃の補助が出ないとかあり。
- ・空き家、アパートを市が借り上げ、民間需要に代わり建設業者、不動産業者と協働して行う。
- ・空き家を使って集会所をつくる→近所付き合い、情報交換
- ・所有者、地域、建築業者、金融

未来戦略2：立ち止まり感じるひとづくり GT⇒CTプロジェクト[2グループ]

★市内のレジャー宿泊施設で、市民向けに格安サービスをする代わりに、SNS等で情報を拡散してもらう。

<ポストイット記録>

- ・グリーンツーリズムの運営者にお金がまわる仕組み（資金を少しでも補える仕組み）はどのように考えて作っているのか。
- ・伊予市は、滞在せず通過する人をいかに止まらせるか、立ち寄らせるかに力を入れるべき。
- ・地域の魅力を作る。農村を花でいっぱいにする。外からの訪問機会をつくる。
- ・農業従事者が増えないとグリーンツーリズムは進まない。
- ・夕日の見える双海町の宿泊設備、温泉（入浴設備）。道の駅の機能を持たせ、お金を落として貰う。通過のみではだめ。
- ・GTを始めて数年になりますが、利用者は多くなりましたか？
- ・GTは農漁業等とつながりが多く効果がありそう。
- ・子どもからお年寄りまでが住みやすい、快適に生活できる環境を構築しよう。
- ・小学校、愛護班などで体験学習として利用する（ピザ、イチゴ狩り、こんにゃく）。
- ・伊予市グリーンツーリズム推進協議会の存在は知りませんでした。
- ・若者が興味を持ちやすい体験学習を行う。
- ・あらゆる世代が楽しめる体験学習。
- ・学校に呼びかけてレジャー体験をしてもらう。

未来戦略2：「あじ」なまち応援プロジェクト[2グループ]

★何か一つ、目玉商品のある店をつくる。例) 激安ショップ、おいしい飲食店

- ・遠くからでも通いたくなる店
- ・スーパーにはない突出した商品。例) いのししを利用した商品

★空き家や使われていない場所を駐車場に（遠くからでも自家用車等で訪れやすくなる）。

★空き家を借りやすくするシステム

- ・商店のみの利用ができないため、町家から商店街に移ることができない。

<ポストイット記録>

- ・いのししを利用した食品の開発。加工センターがあり、その軒を利用していのししを解体し、町民に買って貰うとか。回る仕組みがない。
- ・他市などが行っている商店街活性化事業との違い。
- ・空き店舗など、ちょっと企業のようなおためし企業としてシェアする。
- ・百円商店街、まちゼミにしても地域になじんでいない。目玉商品がない。
- ・空き家を、生活の基盤となるものを売る場所にする。
- ・農家さんに農業体験を受け入れてもらう。
- ・空き店舗のない様に努力すべきである。
- ・百円商店街やまちゼミに加え「バル」をしてみてもいい？
- ・商店街の空き店舗を再活用する必要がある。
- ・買い物する場としては魅力がない。
- ・空き店舗とかの貸し借りにトラブルがなければ…。
- ・地域の個性を全面に出す。
- ・看板の設置。
- ・「あじ」という呼び方をやめては？
- ・ふるさと納税の返礼品を商店街中心にプロデュースしてみる。

<発表から>

- ・女性に美味しいお店だったりパン屋さんだったり、激安ショップがあると遠くても足を運ぶので、遠くても活用してくれるようなお店を一店舗つくったら良い。
- ・空き家など使われていない場所を駐車場にして、それを端端に置いて、歩くような形の駐車場の取り方をして、商店街を歩いてもらいたい。
- ・空き家を借りやすくするためのシステムは市役所さんをお願いしたい。



★「行政主体の企業誘致」

- ・まだまだ行政の支援策が足りない
↓そこで
- ・市長によるトップセールスで付加価値をつくる
- ・創業のための個人の考え（夢）を共有する場をつくって、創業者の不安を軽減させる。
↓
- ・創業するメリットができ、企業の新規参入につながる

★「テーマパーク」

- ・伝統的な建物や観光スポットが点在しており、一箇所に集客できるような場所が欲しい。
↓
- ・空き家等をうまく使ってお店を出したり、新しい施設をつくってまちを1つのテーマパークにする。
↓
- ・観光客が立ち寄れる場所が増えるので、滞在時間も延び、観光産業の振興につながる。

★「人生の楽園」

- ・最近では若者もシルバー世代も農業への関心が高まっている。
↓そこで
- ・農村の空き家と田畑を組み合わせた貸し農園
- ・貸しロッジをつくって滞在
↓
- ・休暇を自然豊かな伊予で過ごしてもらう

<ポストイット記録>

(支援)

- ・創業知識、資金の支援はあるが、「営業、集客方法、数字」に特化した支援も必要。
- ・成功させるために、行政では超優秀者に担当させる。地域では責任感のあるリーダーを充てる。
- ・市の職員はどのようなお手伝いをされましたか。(PR)
- ・奇抜なインパクトのあるHP
- ・伊予市で企業することのメリットをしっかりとPR
- ・点在した建物を1つのスポットとしてまとめる。(アイデア)
- ・プロジェクトを強力に推進するリーダーの発掘。団塊の世代(大量退職)の登用。
- ・本社を誘致しなくても子会社を誘致すればいいのでは? サテライトオフィス。
- ・食に関する店を商店街に集める。今の店のみ移ってもらう。外から誘致する。
- ・農業部門に於いて農産加工場を発展させ、企業として育てて就労の場としてほしい。
- ・日常的なリゾート地→お金を落としてもらう。
- ・農村の空き家と田畑を組み合わせた貸し農園。農村の空き家を利用した貸しロッジ。
- ・創業のための個人の考え(夢)を共有する場が必要!
- ・こんにゃく芋はいのししは食べないと聞いている(手づくりこんにゃく)。作って町家などを利用する(こんにゃくは作りやすい)。

<発表から>

- ・企業誘致は武智市長さんにトップセールスをもっとやってもらう。今、埋立地が更地であるので、積極的に取り組んでいただく。
- ・双海町にお金を落とすために宿泊設備、温泉、野菜や魚を買って帰れる施設をつくりリピーターもできるように。双海町の夕日売りにしてテーマパークにする。
- ・テレビの『人生の楽園』のように、若い人や都会の人に来てもらったり、貸しロッジをつくって休暇を過ごしてもらう。
- ・小さな会社に大きくなってもらう。
- ・伊予市の広報に、具体的にどこに家や産業の土地が空いているかをわかりやすく発信したらことが運びやすいのでは。



未来戦略3：「イヨ」発信プロジェクト[4グループ]

- ★日時を決めて、防災無線で市の情報（市報のこと、イベントについて）を放送
- ★中学生、高校性への地域貢献活動（ボランティア活動）を市が推奨していく。
- ★ゆるキャラを知ってもらうためにグッズを作り、幼稚園、小学校へ出向いて活動する。

<ポストイット記録>

(広報)

- ・下灘駅の場所を示す看板がない。
- ・伊予市駅プラットホームに「みかん丸」人形や地産品の宣伝をする。
- ・HPの動画で「食」の宣伝をする。下灘だけではないぞ！をアピールする。
- ・伊予市観光PRのCMを公募する（市民から）。
- ・SNSもわざわざ伊予市をフォローしない。
- ・日本一、県一有名地であるものもある、をPR。
- ・物産館（東京）への伊予市商品の出店。
- ・伊予市の方が伊予市を知る運動を進める。
- ・住民のオススメスポットの地図のようなものをつくる。
- ・広報が若い人に読まれていない。
- ・PR、発信方法の見直し。

(人材)

- ・人材の育成。これから退職する人材を登用する。きめ細かく調査することが大切（個人情報）。
- ・文化になるのかなあ、秋祭りとか神輿担ぎの人がない等の課題あり。学生さんとのつながりが欲しい。

(アイデア)

- ・他地域の政策を取り入れる（社会保障等）。
- ・地元の根付くことから始める。
- ・日帰りツアーでスポット巡り。
- ・ヤマキ、そうめん流し。市も応援し、日本一長いそうめん流しとか、イベントをやればいいのか。
- ・削り節の工場見学。ピワやキウイを使ったイベント。
- ・ハモ祭り。下灘。
- ・当たり前の販売では採算が採れない。ブランド化を図り、特別価格で販売が出来るよう、積極的にブランド化の指導を。

(ゆるキャラの活用)

- ・いくつかあるゆるキャラを集団として売り出す。
- ・キャラクターの強化。
- ・ゆるキャラやロゴマークの知名度が低すぎる。

(その他)

- ・割合知られていない歴史
- ・「イヨ」を「いよ」にしては？



<発表から>

- ・日時を決めて、防災無線で市の情報を放送する。やはり催し物などの情報がきちんと伝わっていない。広報だと若い人達は目を通さずに終わってしまい、ツイッターなどのSNSではお年寄りなどがインターネット環境などが整っていないために見られず伝わらない。防災無線なら口伝えに全員に広がるのではないかな。
- ・中学生、高校性の地域貢献活動を市が推奨する。地域の祭りなどで神輿の担ぎ手がないことや、学生の助けがもっと欲しいということがある。学生を呼ぶためには中学校や高校に、ボランティア活動ではなく、地域貢献活動として市が推奨していくということが大切だと思う。
- ・ボランティア活動と言うと、無償でやらないといけない、しんどいというイメージがついているが、地域貢献活動は「地域に貢献する」という意味から参加者が多少増えるのではないかな。
- ・伊予市のゆるキャラは味の五勇士のミカンまるなどだが、今、一般的に知られているのはみきゃんやバリィさんなので、小学校や幼稚園の人達を対象に売り込むことから始める。シールや塗り絵などを配ることからお母さんに伝え、それが祭りに行ってみようかということにつながるのだから、そういう活動をしていけばいいのではないかなと思った。



未来戦略3：地産地消プロジェクト[5グループ]

★小学校から授業で地元の特産品や地産地消の現状について、自ら調査する機会を設け、子どもの頃から関心を持つよう意識改革を行う。

★差別化（小売り） - シール、産地。東京販売参考価格の表示。商品の価値提供

★伊予市のシンボルとなる施設をつくり、人を集め、そこで伊予市をアピールする物を消費（食する、購入するなど）してもらう。

<ポストイット記録>

（特産品、ハモの活用）

- ・まちの集まり（敬老会等）の弁当などにハモを使う。
 - ・ハモ料理をたくさん出していけば。
 - ・ハモは食べにくい→良い調理法が知りたい。
 - ・ハモを身近にする事。食べ方、口にする機会。
 - ・鱧は徳島県が頑張っている。伊予市もPRを積極的に行い、販路を拡大してほしい。
 - ・販売所、ご飯所で扱ってもらう。そしてお店を増やしていく。
 - ・特産品を使った弁当をつくる。
 - ・夕日の見える双海に宿泊設備を作り、客にハモ料理、その他の料理を出す。
 - ・特産品を伊予市全体で共有する。
 - ・伊予市の港に水揚げされる魚が購入できる場の設置。
 - ・近隣の市町より安いをPR（学ぶ、広げる）
 - ・小学校など幼い時から自分の地域について学ぶ（授業、遠足など）。
 - ・五色姫の物語を活用し、学校などにPRし、紙芝居等を作ったりしては。五色浜はきれいな所（ゴミが多いと聞く）。
 - ・地域活動、産業、モノづくりなど伊予市で頑張っている人を特集する！
 - ・伊予の「人」を発掘する。
- （その他）
- ・地域内で物々交換できそう。
 - ・中古農機を貸して下さい。就農しやすい。



<発表から>

- ・皆さんに書いていただいたポストイットには、「鱧（ハモ）」というキーワードがたくさん書かれていた。
- ・鱧についていろいろ話しているうちに、鱧には好みがあるし県外出荷が良いのではないかということになった。
- ・小学校のうちから授業で、地元の特産品や地産地消の現状について自ら調査する機会を設け、子どもの頃から関心を持つよう意識改革をする。
- ・地産地消の商品には産地のシールが貼ってあるがそれでは弱い。例えば百貨店の参考販売価格や東京の販売価格を表示し、良い物が安く売られていることがわかるように商品の主張とも言える金額をずばっと書く。
- ・伊予市のシンボル施設をつくり人を集め、そこで伊予市をアピールする。



未来戦略1	未来戦略2	未来戦略3
観光振興費 377	GI→CT 875	伊予祭信 571
観光バスツアー 321	伊予の産物 721	地産地消 577
伊予の産物 815	小売販売から大規模購入 316	品物推進 322



★「やりましょう」が言える

- ・人の空き時間を知る。ちょこっと！
- ・自己責任にしない。サロンで知り合った人とかを巻き込む。
- ・助けたくなるようなリーダーを。

★サロンを身近な所へ。笑っても食べても何しても良い。

(入りやすい要素)

- ・自分のやりたいことのできる場が色々あれば良い。
- ・誰かと一緒に入る。

<ポストイット記録>

- ・WSをもっと身近にできないか。
- ・何でも相談窓口はないか。
- ・住民の話が直に聞ける開けた窓口。
- ・今回の様な場をたびたび続けること。
- ・住民の希望者より専任者をボランティアで行動させる。
- ・人口が2万8千人になった時に市の行政がどういう体制になっているか。シミュレーションをし、市民に指し示す事が必要。
- ・参画と協働の連携は不十分であると思う。協働の体制を整えてほしい。
- ・自治体の強化
- ・災害後の住民の助け合いが心配。日頃のつながりが薄いので。
- ・地域コミュニティ。リーダー不足、つながりの希薄→リーダーの発掘（育成は難しい）。



<発表から>

- ・地域のつながりが以前と比べて薄れてきているのではないかと。若い人がなかなか地域に溶け込んでくれない、拒絶されるので何とかしないといけない。
- ・井戸端会議で出た良い意見の、後一步が踏み出せない。「やったらいいね」という意見が出てなかなか進まないで、「やりましょう」が言えるような環境にしたら良いのではないかと。
- ・住んでいる人の空いている時間帯などの情報を知ることが必要。
- ・言いだした人の責任にせず、みんなで協力する。助けたくなるリーダーを選ぶ。
- ・昔の井戸端会議がなくなったので、近くの空き家を利用してサロンにする。
- ・曜日を変えて、お茶を飲める日や手芸の日などを設けて、若い人はお年寄りに習ったり、お年寄りは若さをもらったり。一人では行きにくいから、誰かと一緒に入る場所を考えたらどうか。

まとめ

今日の市民討議会のまとめとして、事務局からコメントしました。

簡単に感想を二点、申し上げたい。

我々職員は予算や実施期間等を考えて「これは難しい」と手を引いてしまうことがよくあるが、皆様は市民ならではの目線で、実際にどういう伊予市にすれば市民の皆様の為になるかという視点から具体的な取組としてまとめておられ、本当に感心するばかりであった。

市には子育て支援や高齢者支援のように、それぞれ施策があるわけだが、本日話し合った9つのプロジェクトは、分野をまたいでまとめられたものである。今回、空き家、空き店舗、空き校舎と

いう空き施設をどのように活用するかの提案が4つ出されたことから、空き家等の方向性が決まるだけで、プロジェクトが大きく進展することが分かった。これからは自分達の仕事だけではなく、様々な部署が集まって空き家をどう活用するか、地域と行政のつながりをどうしていくか、そういうところを真剣に考えないといけないなとつくづく感じた。

本日の討議会で出された意見や提案をどう活かしていくのかは、私達に与えられた宿題だと思う。

